第 28 回生態人類学会研究大会

プログラム・発表要旨

2023 年 3 月 17 日（金）・18 日（土）

会場：休暇村大久野島

〒729-2311 広島県竹原市忠海町 5476-4

Tel. 0846-26-0321

島びとの描く宇宙観と生命観

画文集『ぬ‘てぃぬかーら・どぅなん（いのち湧く島・与那国)』の世界

安渓 遊地＋安渓 貴子（生物文化多様性研究所）

概要　与那国島の伝承者、N 子さん（1954 年生まれ）が伝承し、日々の生活と祈りの中で制作される、詩文や絵の中から、島の宇宙観と生命観につながる部分を中心に、画文集として公開する。

材料と方法　発表者は､N 子さんと三度しか対面していない。直にお話しできた時間は、合計半日程度である。それにもかかわらず、初対面から 30 年あまりの間に発表者に届けられた資料は､与那国語の語彙カード約 4000 枚を筆頭に、厚さ 1 メートルを超える伝承ノート、700 枚の絵、祈りや歌の録音と動画など、膨大なものである。

結果　人が暮らしの中で「清め」を通して**ニラガナチ**（地底の尊称）に託したもろもろの汚れは、年に一度、旧暦三月三日の日に、ニラガナチとともに海に流れ出て、わきかえる**トゥーガナチ**（海の尊称）の力を借りて、**ティンガナチ**（天上世界の尊称）にまで届けられる。人が生んだ汚れは、そこで浄化され、月の光や星の光、太陽のぬくもりや慈雨となって地上に降り注ぐ。その時、人が**「汚れ」や「魔物」**としていたものたちも解放されて喜び笑う。忘れ去られようとしている、日々の祈りを N 子さんは今も続けている。祈りと歌に埋め尽くされた日々の中で、台風どころか、黄砂にまで歓迎と感謝の祈りをささげる。地球上の水の大循環とも呼応する壮大な与那国島の宇宙観と生命感は、開放定常系である地球で、**生命が開放定常系**であり､島もまたそうした存在であることを雄弁に物語っている。N 子さんは**「なめくじがいないと私はこまる」**と歌う。**地・海・天への使者**として育てたジャコウネズミやうみがめ、つばめ等の聖なる動物を始め､すべての命あるものとの共存こそ､持続性のある島の暮らしを支えてきた**伝統的な環境知識（TEK）**の核心だった。

考察　**「伝承の複数の流れ」**　島には、島なりの「正統なる」伝承がある。それとは違う流れの伝承を担った N 子さんは、長年の抑圧にさらされてきた。その一部を公開することは危険が伴う。伝承者の安全をいかに担保することができるか。

「研究の主体は誰か」　「口頭伝承を記録する・記録される」関係から「記憶遺産を託す・託される」という主体の転換ないし融合が起きている。

「誰が金を出すか」　「託される側」としての、整理・公開の経費は「成果公開科研費（データベース)」に、公的機関に属さないでも応募できる。その後は、維持費無料のサービスを利用。データベースの Airtable 社の教育目的認定で無料使用、Googlemaps とのリンク、YouTube 動画としての保存など。サービスの不意の終了に備えておくこと。

「Bit Rot © Vinton Cerf」の問題　リンク切れ、ハードやソフトの消滅。整理し、クラウド上に保存・公開したデータを、研究者の死後も地域住民が利用し続けられる方法として、出版以外にどんな方法があるのか。学術論文の DOI のような、長期参照を保証するシステムは、まだ確立していない。

謝辞　N 子さん。成果公開科研費 16HP8013（コンゴ民主）, 18HP8009（西表）, 20HP8006（与那国）, 地球研列島プロ(2005-)、同 Linkage プロ（2021-)。

参考文献（QR コードは、データベースのサイト）

・安渓貴子・遊地 2011「与那国島のものの見方・考え方」『奄美沖縄環境史資料集成』南方新社
・安渓遊地・貴子 2011「530 年前の済州島からの漂流民の記憶」『うたいつぐ記憶』ボーダーインク
・宮本常一・安渓遊地 2008『調査されるという迷惑』みずのわ出版
・和歌嵐香 N 子 2023『ぬ‘てぃぬかーら・どぅなん（いのちわく島・与那国)』地球研

大会プログラム

1 日目（3 月 17 日）

12:00–　　受付開始

13:30–13:40　事務連絡・開会挨拶・黙祷

セッション 1　座長：飯田 卓（国立民族学博物館）

13:40–14:10　花村 俊吉（京都大学）

「サルを観察する人、人を観察するサル―大水無瀬島と情島におけるサルと人の関係誌」

14:10–14:40　安渓 遊地・安渓 貴子（生物文化多様性研究所）

「島びとの描く宇宙観と生命観

―画文集『ぬ'てぃぬかーら・どぅなん（いのち湧く島・与那国）』の世界」

14:40–15:10　上田 雄大（北九州市立大学）

「近世からつづく商家と流通の歴史―門司港の岩田商店はいかに時代の海をわたったか」

15:10–15:20　休憩

セッション 2　座長：八塚 春名（津田塾大学）

15:20–15:50　泉 直亮（目白大学）

「タンザニア・スクマの牛耕―ウシの「やさしい」扱い方」

15:50–16:20　近藤 有希子（京都大学）

「丘陵の再編―ルワンダ南西部における土地保有と貸借の実態」

16:20–16:30　休憩

セッション 3　座長：川添 達朗（東京外国語大学）

16:30–17:00　島田 将喜（帝京科学大学）

「野生チンパンジーたちは重体の他個体に対してどう配慮するか」

17:00–17:30　徳山 奈帆子（京都大学）

「ルオー学術保護区内外における、中高生のボノボとの遭遇体験と保全意識」

17:30–18:00　築地 夏海（東京外国語大学）

「京都市動物園におけるゾウ個体群の社会関係―飼育員とゾウの相互行為分析に向けての試論」

19:00- 夕食

2 日目（3 月 18 日）

09:00–09:20　総会

セッション 4　座長：卯田 宗平（国立民族学博物館）

09:20–09:50　黒田 末壽（滋賀県立大学／火野山ひろば）

「日本の焼畑―戦中戦後の食糧難と焼畑の変化」

09:50–10:20　岩谷洋史（姫路獨協大学）・田原範子（四天王寺大学）・花村俊吉（京都大学）・岡田浩樹（神戸大学）

「フォト・エスノグラフィーの実践における基礎的モデルの検討

―フィールドでの写真撮影の難しさについて」

10:20–10:30　休憩

セッション 5　座長：河合 文（東京外国語大学）

10:30–11:00　安松 弘毅（京都大学）

「ラオスにおけるラン科植物の自生状況と利用」

11:00–11:30　岡野 美桜（京都大学）

「パラオにおけるベテルチューイングの行方―リスクと「シューカン」の両側面から」

11:30　閉会挨拶

生態人類学会 2022 年度事務局（研究大会実行委員会）

松浦直毅（椙山女学園大学）、山口亮太（椙山女学園大学）、木村大治（京都大学）

連絡先：ecoanth2022@gmail.com